

日光東町ワーキンググループとは？

日光東町のまちづくりは「日光東町まちづくり規範」に基づき「祭り（いのり）のまち」をテーマに進められていますが、このテーマを具現化し、住民主体で実際にまちづくりの取り組みを行う組織が「日光東町ワーキンググループ（WG）」です。

上部団体の東町11か町の自治会長で構成される「日光東町まちづくり推進委員会」から推薦された各町の代表者、NPO法人日光門前まちづくりの代表者16名（令和7年5月1日現在）のメンバーで活動しています。

WGは、過去、まちづくり規範の策定（第一次）、同規範の深化版の策定（第二次）に取り組みましたが、令和5年度からは第三次WGとして新たなメンバーで再発足しました。

具体的な活動としては、WG内に3つの部会（アーカイブ部会、情報交換・交流部会、社会実験部会）を設け、各部会長の下、日光東町のまちづくりに関する課題の洗い出し、解決に向けた取り組みを始めています。

各町内の自治会長
日光土木事務所
日光商工会議所
アドバイザー（宇都宮大学他）
[事務局：日光市都市計画課]

日光東町まちづくり推進委員会

各町内の代表者
NPO法人日光門前まちづくり
アドバイザー（宇都宮大学他）
[事務局：日光市都市計画課]

日光東町ワーキンググループ

●地域の諸課題の解決に向け具体的な活動・事業を行う

社会実験部会

- 整備完了区間の修景
- 公共空間の活用等

アーカイブ部会

- 街並み・暮らしのアーカイブ
- 写真・記録の収集・保存・活用

情報交換・交流部会

- 今後の整備事業や事業の循環を想定した、街並み・景観づくりに関わる情報交換

※このほかの取り組み（サイン、マップの作成等）についても、順次取り組む予定である。まずは、3つのテーマ（部会）で動くこととした。



日光東町のまちづくり
参加者募集中！

一緒にまちづくりを楽しみませんか？

ワーキンググループでは、参加メンバーを随時募集しています。

各プロジェクトの部分的なご参加も大歓迎です！
下記の問い合わせ先、または各町内のワーキンググループメンバーまでご連絡ください。

また、まちづくりへのご支援・ご協力もお待ちしております。個人、事業所や店舗単位でも、是非ともご参加・ご支援をよろしくお願いいたします。
（※ご支援・ご協力につきましては、NPO法人日光門前まちづくりまでお問い合わせください。）



発行日 2025年3月
発行 日光東町まちづくり推進委員会
相談窓口 NPO法人日光門前まちづくり
[mail: nikkomonzen@gmail.com]
日光市都市計画課都市計画係
[TEL: 0288-21-5102]
編集 | 制作 NPO法人日光門前まちづくり
宇都宮大学大嶽研究室（担当：中澤佑希）



みんなの まちづくり

日光東町ワーキンググループの活動



まちづくりのテーマは 「祭り（いのり）のまち！？」

日光の門前町は、古くからのお祭りがたくさん残っていて、コミュニティの季節ごとの「要」として大切に行われています。

「この間はお世話になりました」
それがお祭りが終わってからしばらくは、町衆の合言葉のようにもなります。

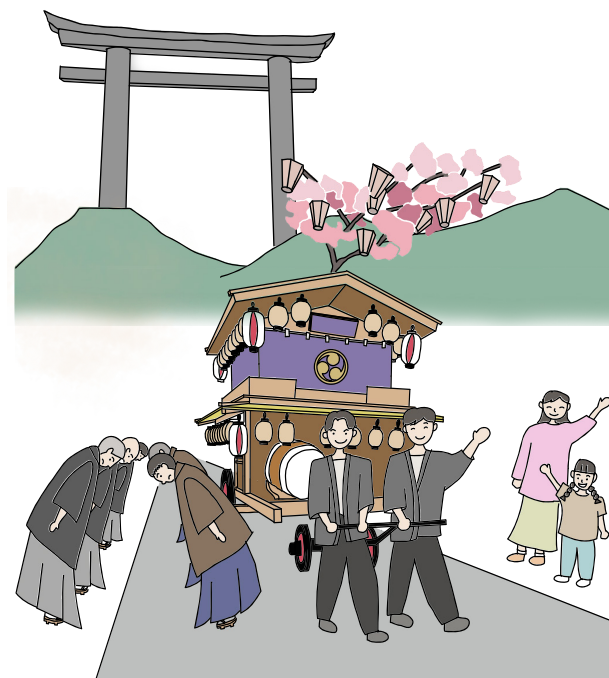
お祭りが一つ終わったら、次のお祭りの準備がはじまる。
調べてみると、「ほぼ毎月、どこかで誰かがお祭りをしている」という状態なのです。

社寺のお祭りから、各町内ごとのお祭りまで大小様々。山々と社寺があり、山間のまちに暮らす私たちのそんな「信仰：いのり」が、この地区の大きな特徴といえます。

また、国内をはじめ世界中から信仰や祈りの気持ちが集まってくる場所としての「日光」であることを考え、まちづくりのテーマは「祭：いのり」としました。

暮らしと信仰。大切なそれらが残り、受け継がれて、結果的には訪れる様々な人の楽しみの受け皿にもなって欲しい。

観光のまちにあって、私たちはこのテーマをもとにまちづくりを進めています。



ワーキンググループの活動



社会実験部会

景観づくり、修景、セットバック部分を含めた「まちの使い方」の検討



日光東町の美しい街並みを未来につなげるため、市民・行政・大学が連携し、まちのあり方を共に考える「社会実験」に取り組んでいます。社会実験とは、実際の場所で小さな試みを行い、その効果や反応を検証しながら、より良い解決策を探る取り組みです。この活動の目的は「修景（しゅうけい）」です。

修景とは、建物や道路、看板などを周囲と調和するよう整え、まちの景観を美しく、心地よくしていくこと。歴史的建造物や自然に恵まれた東町に、調和と連続のある街並みを少しずつ整えていくことを目指しています。

令和6年度からは通り沿いの課題を調査し、東町の景観に合うデザインのカラーコーン制作に取り組んでいます。日光木材業協同組合様のご協力で、地元産木材を使った行灯風のカバーを制作中。これからは店舗前や駐車場、工事現場などに実験的に設置し、改良を重ねて歩いて楽しい景観づくりを目指します。

今後も日光の景観を大切にしながら、日光らしい景観づくりを皆さんと共に考え、試し、育てていきたいと思ひます。



アーカイブ部会

古写真・古資料など
まちの記録や記憶の保存、活用



これまでの古写真などのアーカイブ資料収集活動では、十数名の方からのご協力をいただき、絵葉書等も含めて約100枚程度集まりました。どの写真もこれまで目にしたことがない風景が広がっており、大変ありがたく思っています。

弥生祭などのお祭り、市電が走っている風景、そして時代的には戦後のものが多い印象です。一方で「街並み」「風景」に焦点を当てて撮られたものは少なく、アーカイブ収集の課題が残りました。

今後は、ご提供いただいたこれらの写真でパネル展等を開催するなど、活かす活動も行なって参りたいと思ひます。

また、前述の通り風景を記録しておく必要性も強く感じましたので、今の街並みを記録する活動も並行して行いたいと思ひます。

古写真等は引き続き募集しております。

「この写真は古い」「資料や参考になりそう」と思えるものはもちろん、特に明治・大正、昭和初期など戦前の写真と思われるものなどは大歓迎です。そのほか、古い地図や資料（史料）等もございましたら、ご提供いただけましたら幸いです。

今後、鉢石地区の街路整備事業が進みます。その際に整理や処分されてしまう前に、是非、捨てずにご提供いただけますようお願いいたします。



情報交換・交流部会

整備事業やまちづくりに関わる住民同士の
情報交換



東町の街並み整備事業もいよいよ最終段階、下鉢石町地区の歩道整備が始まり、中鉢石町・上鉢石町地区でも事業の調査が始まりました。私達も当事者ですが、特にこれから事業が入る、中鉢石町・上鉢石町の住民の皆さんからは、「何をしてよいか分からない」という声をお聞きます。

そこで、情報交換・交流部会では、このような住民の皆さんの声にお応えできるような取り組みを行っていただければと考えております。

まず、今年の1月30日には、中鉢石町・上鉢石町の住民の皆様にお声がけをさせて頂き、第1回目の「まちなみ懇談会」を日光公民館で試行的に実施し、これまでの参考事例や東町まちづくり規範を学びながら、意見交換を行いました。

今年度以降は、懇談会で出された意見を参考に、どのような設えで開催するかを検討しつつ、第2回目の開催を目指してまいります。また、宇都宮大学さんにもご協力をいただき、学生さんなど第三者を交えての交流、意見交換会なども検討してまいります。

地域住民の皆さんと率直な意見交換、交流を行っていきながら、東町のまちづくりをより良いものにしていきたいと考えておりますので、皆様のご協力をどうぞ宜しくお願いいたします。

アドバイザーからひとこと

令和5年度に第三次WGが始動して、東町のまちづくりが新たな段階に入りつつあるように感じています。東町は、日光の社寺の門前町としての商いと暮山組織としての祭りを中心に、独自の生業や暮らしによって形成されてきた歴史あるまちです。

第三次WGの活動は、この歴史あるまちを、10年後、20年後も魅力ある姿にするために重要な意義をもっており、期待を寄せていると同時に、地域の知の拠点である大学としてしっかり支えていきたいと思ひます。

宇都宮大学地域デザイン科学部
建築都市デザイン学科
建築再生・安全研究室

助教 大嶽陽徳



日光東町のまちづくりは新しいフェーズに入りまちの使い方を考える社会実験部会、道路整備が進むエリアを含むまちの将来を見据えた情報交換・交流部会、伝統や営みの顕れるまちの姿を残すアーカイブ部会と、WGメンバーの皆さんを中心に活動が活発化してきました。

これらは、培われてきたまちの形成を共有し引き継いでいくためのとても重要な活動です。ここにしかない、日光東町ならではのまちづくりの方法が少しずつ見えてきているようです。



宇都宮大学地域デザイン科学部
建築都市デザイン学科
建築計画研究室

講師 遠藤康一

日光東町地区のまちづくりとワーキンググループの歩み

※ここではワーキンググループの主だった活動時期を表しています

